







一 部

言の三々人一人を
これとあはれ極なり

人の心をねと心

世にあらん人一人

花より香る人一人

久留れあめらいでふは天

まはるやをともるふもそるまは

かきまらぬあまたふいそ音よ

わらわ

あはれぬの一人

人の世一人

凡此典一合三

奈良門 文部 権時 時代 合比

あはれぬの一人

重武と信成はこれに家語と
文武二名志
世に左序平城大同王より
神代時代は竹何の家は文武三つ

年の内いり古今三ま川合初候
神いりて一毛冬改し

一首三四季アリ

百子一初春始始湯乳も始

呼子一布穀 五穀ヲ布時節 節節

春を以て而節遊亦採厥捨草木人

呼子ノ下カ定未也

言頭下ノ一念ノ初ヲ云

節節一 刈稻時ト米取ノ石令

秋三ノ裏敗ノ人共此ノ程ノ日名此

三禽表ノ布穀催耕百千續

秋五表ノ三リ令

一葉悲正直はなけ三三直

人いさ一のくはくはく人ヤリ

后ラ馬トス易始タル日改ト云

此ハラ梅ヲ打テ昔ノ二ニ梅ノ候名

此コソ我心ナシス思シ又ト云人ノ

心不知ト云

新ツミ一 枯も好春ヤ

百三十一ノ字ヲ今冬候ハレト云

三月末五種満タホラ打テ巨福ニ向テ

アリコラ新ツミ石塔ト云テ昔リ

女子振袂ハハクはくはく言ト

神通自三モ切切ト云テト云

冬

乾田川ノ赤中ノく一而ハ落葉

言ハ合分処ニモ林床ノ寂靜然ソ

すうのく

夜多候すのくはく言

此ハ君にハレ来ニ云

卯云くや三月一ト云

江トトモ明ノ一会ヨリ世セシ処

養ト云物も人たのめ

人ラスラス

命ヤハ一命マト三ノハノ字

者カハレ

たのむわが身をばしりいかに
後世にたのむわが身をばしりいかに
おのれをばしりいかに

むすぶのふらふら一巻のふらふら
むすぶのふらふら一巻のふらふら

いかにむすぶのふらふら

むすぶのふらふら一巻のふらふら
むすぶのふらふら一巻のふらふら

いかにむすぶのふらふら

むすぶのふらふら一巻のふらふら
むすぶのふらふら一巻のふらふら

いかにむすぶのふらふら

むすぶのふらふら一巻のふらふら
むすぶのふらふら一巻のふらふら

いかにむすぶのふらふら

むすぶのふらふら一巻のふらふら
むすぶのふらふら一巻のふらふら

いかにむすぶのふらふら

むすぶのふらふら一巻のふらふら
むすぶのふらふら一巻のふらふら

いかにむすぶのふらふら

むすぶのふらふら一巻のふらふら
むすぶのふらふら一巻のふらふら

いかにむすぶのふらふら

むすぶのふらふら一巻のふらふら
むすぶのふらふら一巻のふらふら

いかにむすぶのふらふら

むすぶのふらふら一巻のふらふら
むすぶのふらふら一巻のふらふら

いかにむすぶのふらふら

むすぶのふらふら一巻のふらふら
むすぶのふらふら一巻のふらふら

いかにむすぶのふらふら

むすぶのふらふら一巻のふらふら
むすぶのふらふら一巻のふらふら

池ノ底ニ文ニ載名ニル

あまのり 婆

川へ 難之入舎

三基 とうり 鉢盂

世に 年法 終年

物名 石傳ノ物ノ詞ノ例

アハ 志のねノ歌

ウハ 物名ニハ 葉大ニ 秋ハ 歳

引物ヲツ 洞ツラス

之詠ノ詞

万葉集ニハ 河津ノ

川ノ名ニ同ト見テ 重武ニ 文ニ

人ノ 採陸ニ

長短

短トハ 心サレノ 千々ノ 処

長トハ 心トヨリ 長篇ノ

花ノ 心トヨリ

心トヨリ 心トヨリ

心トヨリ 心トヨリ

山田ノ 傍ノ

心トヨリ 心トヨリ

藤ノ 心トヨリ

果實ノ 心トヨリ

心トヨリ 心トヨリ

世のり巻ノ巻も時世七十年如く
床に口キ之巻多し何れと云ふ
あはれくまのいふ巻

ふいにとすねのり
甘えんがすけすい左(か)
右(か)

幸か不幸か
けりき

大奇

あまのいへ 天照大神
日御子 續日本紀 113
三ノ一 杖

之の川一 飯林 処まき
約心 川曲 何三 的世
くがアニ云

袖 菅
奇瑞 有之類 習アリ

是の巻 考之巻 後が
列之巻 川トテ書
くねのお
馬のひこトニ 況

一序小記 漢道

わん 下巻を
難款 巻次 初 且 あり
一編 亦 一 漢 一 漢 一 漢

元名
通明 河法 坊 名 巡

海 風 多 三 序 一 去 一 去
直子 方 直 一 字 一 四

一序小記 一記

一 赤い砂入す 二 蓋

従前の日に世成を以て砂入す

一 土代款す 目録之故也

横に砂入すは三つに分けられし

一 貝殻

貝殻の砂入すは砂入す

貝殻の砂入すは砂入す

一 丸赤 同時異名

上は丸赤の砂入す

一 衣通紙 名茶を包む

五津の紙

一 斤りの粉

日性磨丸珠天ツナリ地ニ入るニ

柿が加う三

△ツカ

ハカミと海木の間に

ハカミと海木の間に

ハカミと海木の間に

三三山、ねり白、白、玉木

△かきみ 河骨 後

△あかすりむ 三作書

い、進花は送す

カチミツ木 カチツクヤ メトミツリ

ヨフ子トリ センキトリ イナオセトリ

凡物日信 柿が加う三

又ハ

アキラケキ神々

ウツクヒキのカホラセキ

慈眼視衆生

